

# まよりのくらみっさん



今となってはとても信じられないけれど、18年前には当たり前だったこと。  
前回に続いて、パチンコ絡みの話です。

当時通っていたパチンコホールにて。

ある日のこと、突然かつ静かにホールの一部が封鎖されました。

その後そこから一番近く of 出入口まで、広範囲に渡って、ブルーシートがかけられました。

立入禁止の見学禁止。

時間にして2~3時間でしょうか。気がついたら封鎖は解かれ、いつもの風景に戻っていました。

店内放送など一切なく、そのままいつもの時間まで営業し、翌日はいつもの時間に開店。

数年の間に、全く同じ体験を二度しました。

封鎖された場所はトイレです、何があったのかはご想像にお任せ。

今でこそ健全な遊技場ぶっているパチンコホールですが、当時はいわゆる鉄火場でした。

パチンコの大当たり確率は500分の1、スロットはAT時速5000枚、出ない時はとことん出ない。

遊戯中、突然見知らぬ人に声をかけられたことがあります。

もし差し当たってのお金に困っているのでしたら、すぐに貸してくれるところを紹介しますよ。

いわゆる090金融の客引き。借りる人がいるから声をかけるのでしょう。

スロット内部には、メイン基板とサブ基板という部品があります。

まずメイン基板で小役や大当たりを抽選し、直後にサブ基板で液晶やフラッシュ演出を決めます。

4号機のAT、ART抽選はサブ基板が行っていました。(今はメイン基板)

ここで大事なことは、メインは6段階の設定があり、サブにも6段階設定があるということです。

つまり、4号機のAT、ART機には36段階の設定がありました。

設定6といえば普通は6-6ですが、6-1でも一応は設定6。

台を開けて設定表示のセグが6だったとしても、6-6なのか6-5なのか6-1なのか分かりません。

21時以降設定確認OKというサービス、来店ポイントを貯めると設定6が打てるサービス、全6の設定公開イベントなど、全てが全て、手離しで信用できるというものではなかったです。

おしまい